

2012 年度 小委員会活動成果報告

(2013 年 2 月 13 日作成)

小委員会名	バイオクライマティックデザイン小委員会	主 査 名：長谷川兼一 就任年月：2011 年 4 月
所属本委員会 (所属運営委員会)	環境工学委員会 (熱環境運営委員会)	委員長名：佐土原 聡 主 査 名：宿谷 昌則
設 置 期 間	2009 年 4 月 ～ 2013 年 3 月	
設 置 目 的 各年度活動計画 (箇条書き)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 持続可能な建築・都市の実現に寄与するパッシブ要素技術のデータベース化 ・ 住まい手の環境調整行動を考慮した建築環境システムの評価手法の構築 ・ 地域気候に適した自然環境ポテンシャルの有効な活用策の提示 	
委員構成 (委員名 (所属))	委員公募の有無：有	
	主査：長谷川 兼一 (秋田県立大) 幹事：宇野 朋子 (武庫川女子大学), 築山 祐子 (旭化成ホームズ) 委員：金子 尚志 (エステック計画研究所), 北瀬 基哉 (環デザイン舎), 小玉 祐一郎 (神戸芸術工科大), 齊藤 雅也 (札幌市立大), 宿谷 昌則 (東京都市大), 菅原 正則 (宮城教育大), 須永 修通 (首都大東京), 高間 三郎 (科学応用冷暖研究所), 廣谷 順子 (みつつデザイン研究所), 細井 昭憲 (熊本県立大), リジャル H.B. (東京都市大学)	
設置 WG (WG 名：目的)	適応モデル WG：熱的快適性に関する ASHRAE や CEN の「適応モデル」に関する基準は、年間に渡る様々な地域と建物について現場調査した莫大なデータに基づいている。しかし、日本では現場研究が少ないため、日本各地の住宅やオフィスで熱的快適感調査を行い、莫大なデータ収集と統計的解析によって快適温度を明らかにし、高温多湿気候でも利用可能な適応モデルを提案する。	
2012 年度予算	190,000 円	ホームページ公開の有無：有 委員会 HP アドレス： http://news-sv.aij.or.jp/kankyo/s14/

項 目	自己評価
委員会開催数	5 回 (年度内計画を含む)
刊行物 (シンポジウム資料等は除く)	
講習会	
催し物 (シンポジウム・セミナー等) * 能力開発支援事業委員会 承認企画	
大会研究集会	
対外的意見表明・パブリックコメント等	
目標の達成度 (当初の活動計画と得られた成果との関係)	1. 今年度の小委員会を 5 回開催した。委員会開催を適応モデル WG と合同し、住まい手の環境調整行動を考慮した建築環境の評価手法の構築に関する議論を深めた。また、BCD の設計・研究事例を収集し、適宜、最新情報の話題提供としてプレゼンテーションを行った。 2. 小委員会専用ウェブサイトの更新頻度を高めた。また、学会以外に小委員会ブログも開設し、関係各位との情報交換を活発化させるよう整備した。
委員会活動の問題点 ・ 課題	1. 先端研究や建築事例・プロジェクトの話題を披露し議論することに、十分な時間を確保することができなかった。年間の活動計画を明確にして、それに基づいて委員会を開催するよう努める必要がある。 2. 小委員会メンバーは北海道から九州まで各地に在住している。旅費の工面が難しく欠席を余儀なくされる場合もあり、予算を充実させる必要がある。また、インターネット環境を活用した会議開催についても検討する必要がある。

- * 小委員会活動成果報告書は本書式を基本とする。ただし、それぞれの本委員会において活動実績を報告する共通項目があれば、最下段に項目を追加して記述してもよい。
- * 中間年度には中間評価を、最終年度には最終評価としての自己評価を記入すること。

環境工学本委員会用 自己評価欄

2012 年度 小委員会活動 自己評価

(最終年度評価)

総合評価 (4段階評価)	A	B	C	D
総合評価に関する 自由記述欄 (理由、特記事項等)	<div style="text-align: center;">○</div> <p>小委員会では、</p> <ol style="list-style-type: none"> 1)国内外における環境建築の事例を収集し、これまでに蓄積した事例・研究データと統合し、建築・都市のデザイン事例（ハード技術）を整備する。 2)BD から見た環境建築の評価手法のプロセスの構築に向けて、事例評価を試行する。 3)大学での教育現場での環境設計教育の実践例を収集し、データベース化する。 4)バイオクライマティックデザイン出版本の普及とアップデートについて、活動を行った。 <p>1, 3については、5回の小委員会の中で、毎回、話題提供を行い、事例や研究データを蓄積した。</p> <p>2については、適応モデルに関するワーキンググループを新設し、適応モデルの基準について検討した。</p> <p>4については、第2版（改訂版）にむけて内容の修正を行った。</p>			

- 総合評価は4段階(A>B>C>D)にて、自己評価すること。
- 中間年度における自己評価は、単年度の活動計画・目標に対する達成度にて、最終年度における自己評価は、小委員会の設置目標に対する達成度にて評価する。自己評価の目安は以下の達成度レベルを参照のこと。
 - A 評価：小委員会設置目標に対し、80%以上の達成度
 - B 評価：小委員会設置目標に対し、70%から 80%の達成度
 - C 評価：小委員会設置目標に対し、60%から 70%の達成度
 - D 評価：小委員会設置目標に対し、60%以下の達成度
- 小委員会の活動に対し、第三者的評価・外部評価（シンポジウム、セミナー等の催し物を開催した場合に収集した参加者の評価など）に相当する情報がある場合には、その内容も記述すること。